

琉球大学学術リポジトリ

万書集

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション: 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 松茂氏當宗 (筆写) メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49082

血崩漏血まゐ病經水不調血崩と
血に瘧疾の古血の多りるは血運空
に治瘧疾の古血の多りるは血運空
馬はらう牛はらうふふふふ
はまらふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ
傷寒陽明石湯陽明陽明陽明陽明
陽明陽明陽明陽明陽明陽明陽明

一、雲龍白血藥、血門入、上下
一切血病を治す。婦人血氣偏盛
して、血道不度、敗
少、血氣枯渇して百病生ず
如く、血氣盛、婦人の血病を治す
易く治す。我故、血氣盛、婦人
用て、大なる血病ありて、久後
懐妊せざる婦人、血氣を養育根整
たし、滋養して、毎日烏補血果、

玉同養陰血道盛茂一肌肉
活潤一頑皮より生ず一三年
必胎成治すもやう或羊胎血
之七葉より流白を名入如月同養
血少くも若一七日迄少く治す
いふも若又之七葉をたふ五葉陰
則て粉を一茶碗又流白を
くちり丸くも血乾くも補血湯
用てし者

一乘に白與葉血分小をりて下
一切の血を治すや又婦人の理治
の人民之七葉よりや用るに
要法いふもこれ自己に腹中の
血病あるもよて瘰癧もよて
後害せしむる也免るは早是
憐此葉の母葉より婦人用
是れより也其功能とす
びらめ解記常流血也

一時環々回血葉小仙きりなる枝数多
りうて凡分け枝有り枝葉脈血
入更と見るに枝の七七脈血化して
水と成るもの此法は天地の象
にあり見ざる考い一切の血病は治る
ゆふ知る可く故小令已換と云
一政綱目云の葉盛生し根より消い
易し然中霖雨旱魃はけ易し又
夏の比云中より毛出たり枝葉は地切

消い易し是は拙小秋より枝数
十も切葉濕地より乾き立て枝数
葉圍の七に指し穴に数十あり枝のけ
穴より灰を入ると七と穴をさかり枝
と根は活く物なり時に中より葉
より盛生するもの二分は葉の
葉より中より生ける毛は枝葉を
秋冬に枯落せしものなりと云い
成る年毎に生る枝は老地より

のも又牛房れも
 因之是也
 清陰
 血乃
 分明
 事明
 言

一又果の葉は婦人百病の血病を治すに
費にぬるものなり。度々又驚病を

子小楊梅瘡以好血乃敷之月水
 通血脈枯渴之胎生矣

毎朝用いてよいと云ふ

一又田心シヤハシの機無^レきを婦人メノの

業其心心血衰
血乃火部之血病

又生健忘怔忡驚悸の病と云

耳目衆多則聰明益寡

事明如左

一時殊向人參之七云云

似きうと成たさう右に引り
故小是はあて人參之志は若く最
此葉婦人百建の血病に治るる小靈珍
悉く記し終へて一能書城と
光正の階神に之を病に婦人小の
丹を毎日羊肉に同く煮し用て新生の
血を養ひ血が盛茂し病は未だ
免る事と爲る尤も葉は味苦け
根は用て之を治る此葉は葉の

色は黄くわがれは白く後よりハ筆
の如き葉は白くはる見初め時を必
少く用て之

一玉圓葉の葉は夏秋の比に黄くを
乾かし時葉は白く校處て南を信
ずるは其の用は是を植るに枝を
温風を養ふに醫の出る時小に
引移し植る能く養生する

甘菊用する能書

二月上寅の日苗丸是玉英三月
 上寅日系丸是玉英成云九月
 上寅日花丸是玉金成云十月上
 寅日根丸是玉長生云此は
 百日留政陰平号分玉金成
 将客丸日七粒酒を服せり
 百日して力輕潤一年して白髪
 止まる本年してある玉生
 本年及福老人還て兒童を成

草薺丸功能

但い新病
 舊病と新病

此丸玉鳳先生は若地はす可なり
 古来重要之法白丸は梧桐子
 丸は流り水は根は生金成玉生
 恒湯は水お刺しは能く陰を温め
 温で退け老を退抹は陰を温め
 去り癰瘻を消し一服を削除ける
 病の候候候と上端と治し後腎の

證の枯渴に因りて吐衄を致す出寒
安し下後治し白痢病に消出寒の
後痛止止治療の改定なり此は李時珍の
風邪に因りて治し未熟を治し一
全事なり此は良藥を充ふ見病
之病は皆是に後して安後を再の
証法

一 即服先生回春の丸治痢疾を治す
いふも同じ病いふ又流毒を治す或

血熱少く吐血鼻血大便血小便血下
血崩血痢病且懷妊人々熱病の
時少く用ひ多し此は利便薬に非
彼瘧疾全愈に治して用ひる者性
能辛温なり也

肉桂後食し用ひ候

一 或人政綱先生曰く回春の肉桂を
食し者板有る者か若くは回春法に
世の肉桂を用ひる者少くあり

これ今や味の厚き甘美ありといふに
見おこえんまゝ小塩でその旨
味しをその味より小葉の性質は病の
りる穴に入ら小使より漏れけりて全
然なほまゝに病根よりと異け
り。病人の小葉は用ゐる要は小葉の味
を免れぬ小葉の味を免れぬと云ふ
小葉は用ゐる要は小葉の味を免れぬ
と云ふ者ども土湯に小葉を食

文火熱する時先小葉碗一ツに
汲み置き又流白水小葉一ツに
煮かし。金湯に小葉一ツに
流し置き又流白水小葉一ツに
入添置き。換流は重湯方よりけ
り。小葉一ツに煮かし又流白水
小葉一ツに入添換流は重湯方より
けり。此湯は白濁の旨なり。小葉は
肉を煮る塩の味に似たり。七日迄は

ぬれりいそふの性実わゆる病なり
 してそ病いそふも平金に金あり
 世俗の用もやふ利者て金利小喰ひ
 後には金盡し遊に金し風國を肥
 色しりて病いそふも金あり
 祝けし者も病いそふも金あり
 寺も病いそふも金あり
 利しそふも金あり
 分りて病いそふも金あり

今能考いそふ

大坂市に在りて言と作に雲集法

男九火 二日九火 三日九火 四日九火

女九火 二日九火 三日九火 四日九火

六日九火 七日九火 八日九火 九日九火

十日九火 十一日九火 十二日九火

十三日九火 十四日九火 十五日九火

十六日九火 十七日九火 十八日九火

十九日九火 二十日九火

なまじりき目し時大坂の目
右た右きし是迄わ代し月百歳
月百歳は名をいふ事

秋あや於去方波瀬畔海に
馬妻出向又こち指差す笑少し
馬の腹小をこし見事一親に
持金足し浦添河敷もさうさ
光眼蛇燈で枕元月以照さふ

一盞試みぬ減好味を双し若酒
此一親を祖為親戚せうを境渡
歡樂已大親族を思ふ事
少秋より好味をさうさ
巧之令あや一盞好味を
酒樂し荒増さうさ人時帰て一盞
酒の公廣體活二盞酒を
金満二盞酒を足配て
世最減さうさ及之六七盞

腰刀けりやうと書ていふて
すわといふ事には原の白付と書る
白系紙入府子の中腰刀筆紙
墨又は白書紙からとる書物
筆墨は根元知りかひ公事
していふんはしき科能なり
其道をいふもの我海海なり
てなりちやうとに新書紙をいふ
りやうとやうに書ぬる神に

海といふ事や若し教ふ事や
いふんもの新紙の世に書れ
形もいふのの極果に
中より始まるこの美代に
あふ和信紙のりりる
いふ山系と書ていけてやう
とれなうりこれ例に
色合けてちやうと海海と
わきけいふ事やいふや

[illegible]

けふとて暮れんとて牧屋に
 へる孫とていんで黄雲と
 きてけとて腸とて哭て云
 同名神なりとすすぶる
 けとて雲にけりていふ
 けとてのけいふとて
 いはとて相笑のけとて
 けとていふとて
 けとていふとて

法華寺田舎に於て

一 張卷を以て 一 丁子梨を以て

一 防風を以て 一 大苗香を以て

一 香木香を以て 一 江龍を以て

一 肉桂を以て 一 防風鳥を以て

一 張封を以て 一 白秋を以て

右を以て 右を以て 入を以て 一七日を以て

布切を以て 毎朝常一三日を以て

右を以て 此京都妙心寺に於て

此を以て 中風を以て 妙心寺

池邊記 池邊記 池邊記

一 赤土を以て

一 砂灰を以て 但此砂灰を以て 砂灰を以て

一 赤土を以て 赤土を以て 赤土を以て

一 細砂を以て 細砂を以て 細砂を以て

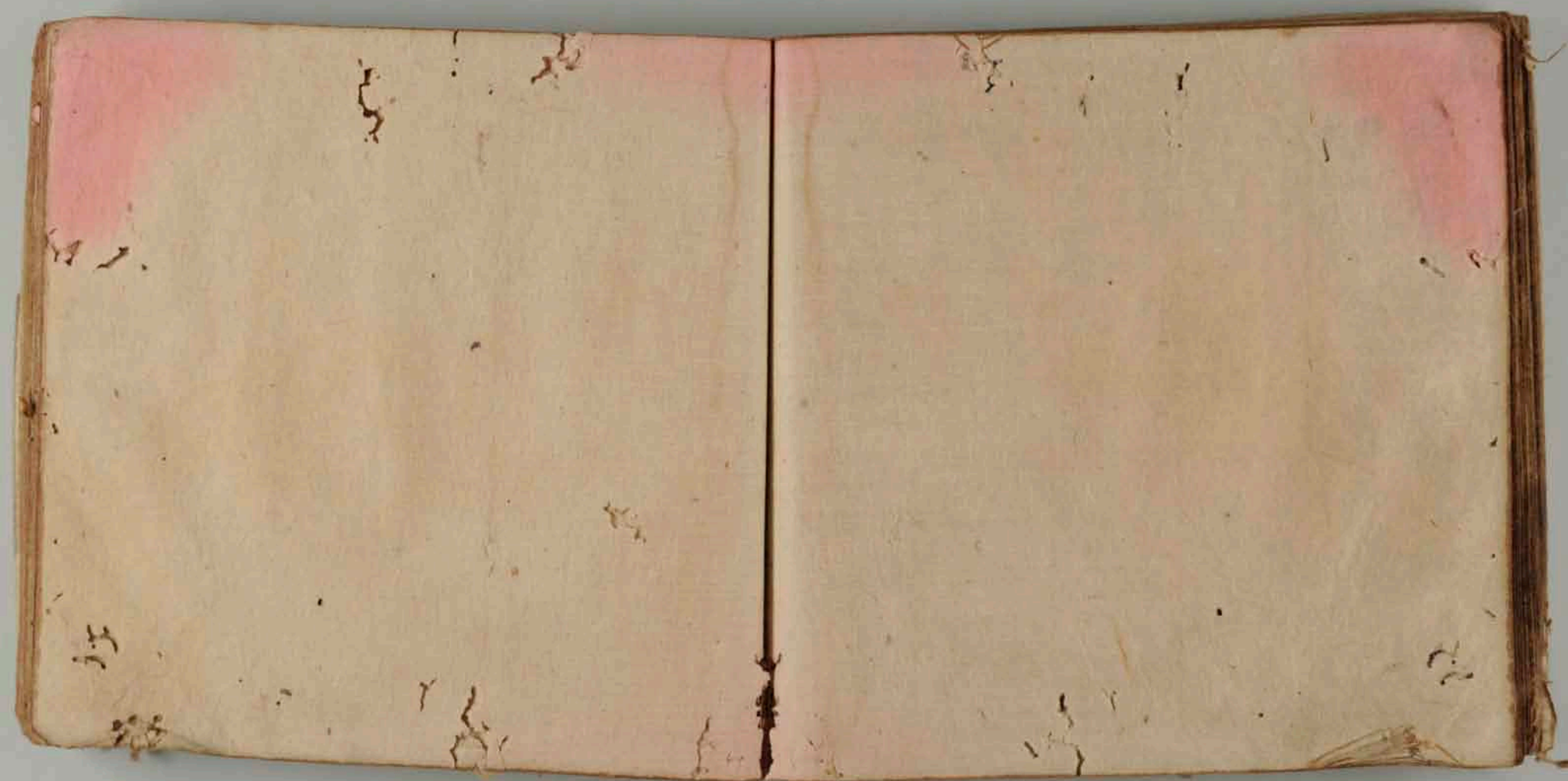
一 赤土を以て

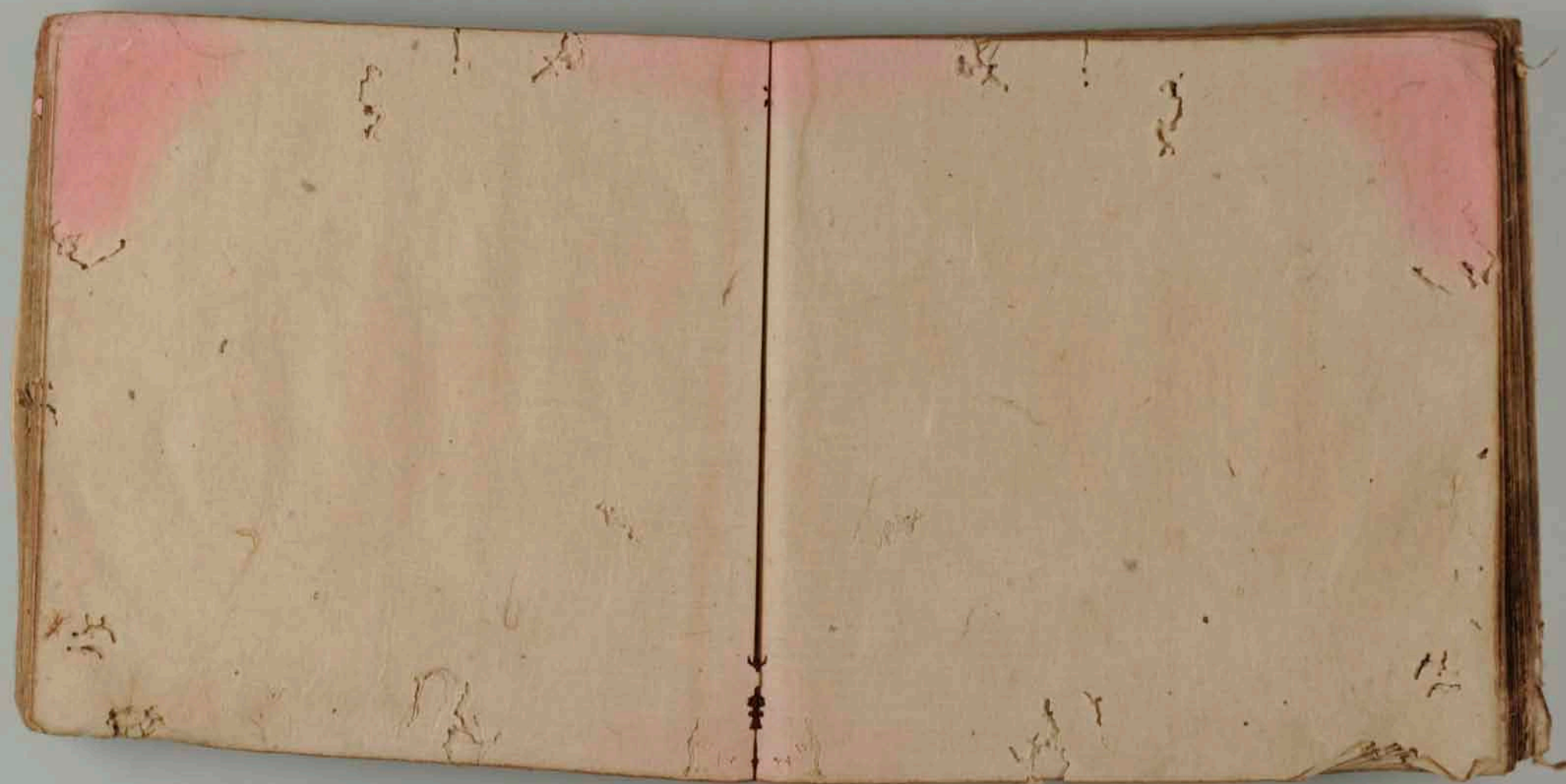
右を以て 砂灰を以て 砂灰を以て

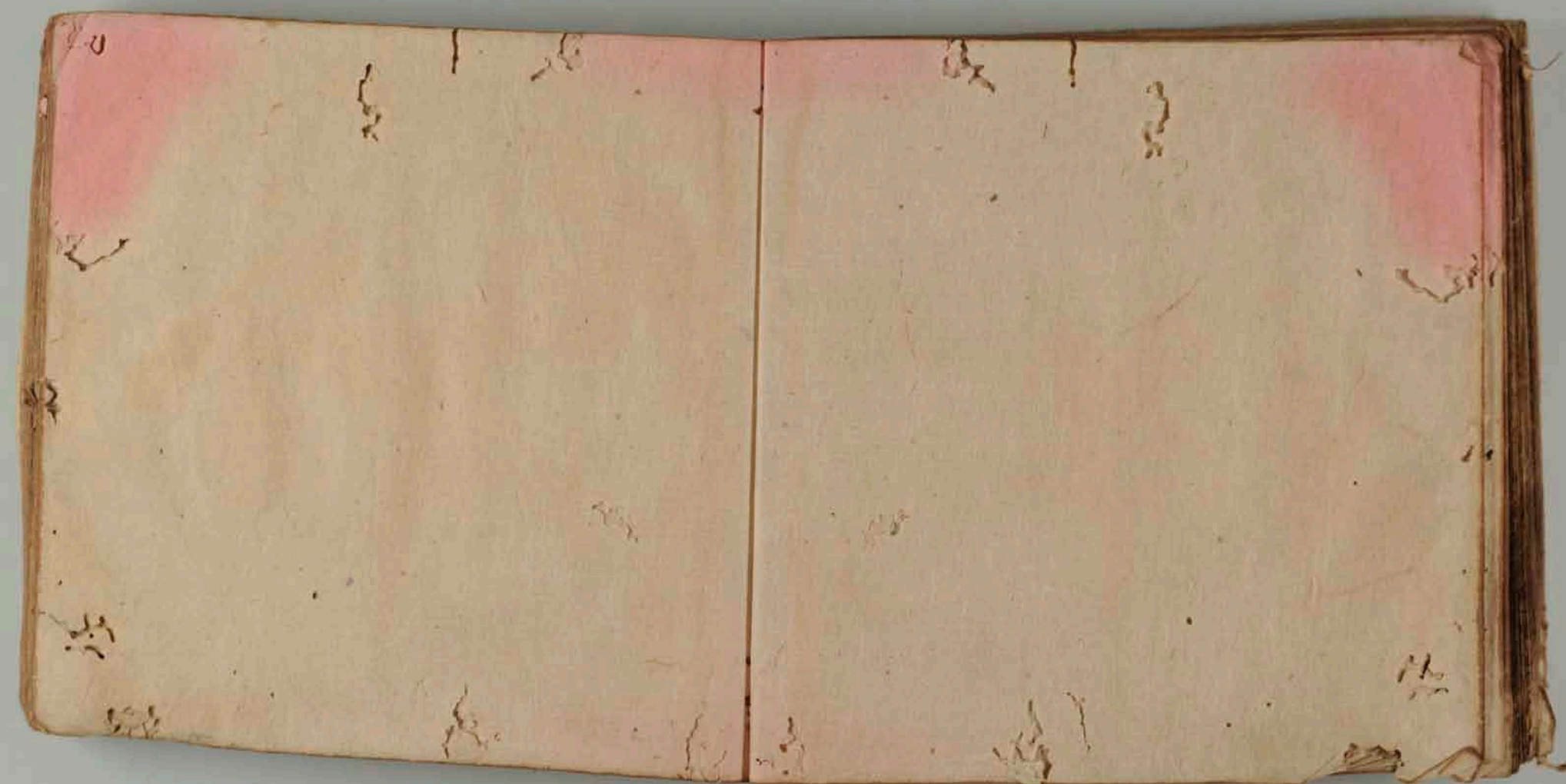
砂灰を以て 砂灰を以て 砂灰を以て

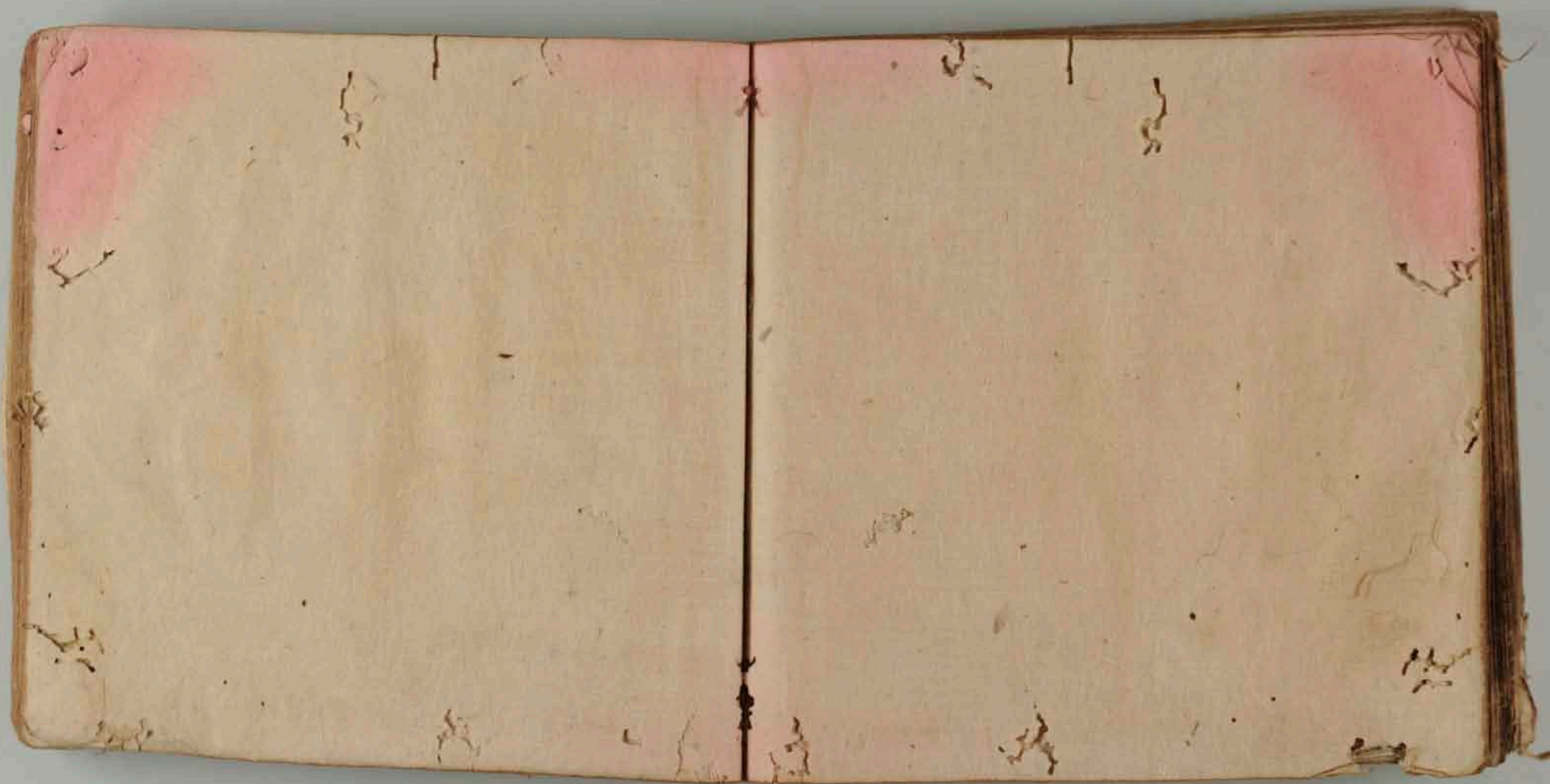
砂灰を以て 砂灰を以て 砂灰を以て

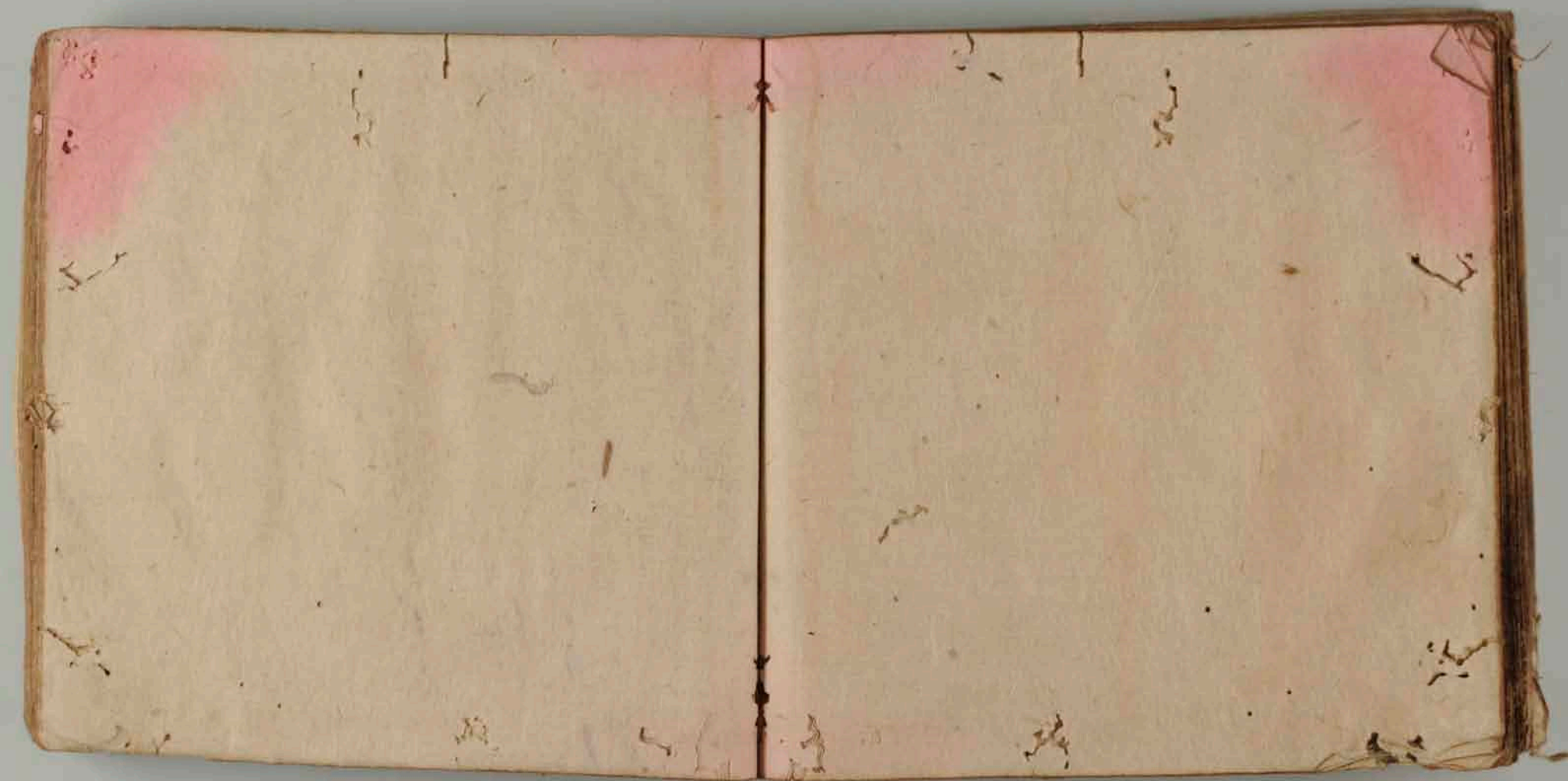
如
減者
爲
法
直
下
水
成
金
一
切
爲
之
事













門五名曰

春以夏丑秋庚冬未

又二月戊戌丙辰門五名曰

南門五名曰

乙未巳未亥酉

作門忌

春以作東門夏以作南門

秋以作西門冬以作北門

此教之古也

木性人 丙戌寅卯寅年未子辰巳申
火性人 子丑寅辰午巳酉戌未卯辰申酉
土性人 午未申戌子亥卯辰未酉丑寅巳酉
金性人 卯辰巳未酉申子丑辰未午戌寅巳酉
水性人 午未申戌子亥卯辰未酉丑寅巳酉

清心法

此法乃清心法也
清心法

木性人 丙戌寅卯寅年未子辰巳申
火性人 子丑寅辰午巳酉戌未卯辰申酉
土性人 午未申戌子亥卯辰未酉丑寅巳酉
金性人 卯辰巳未酉申子丑辰未午戌寅巳酉
水性人 午未申戌子亥卯辰未酉丑寅巳酉

家法

一教水 二教火 三教馬 四教木 五教金 六教雜物 七教神

四教人神

春立腦夏臍秋右股
冬立腰主脊主金但立腦
立秋秋右但立肝
立冬冬主但立心
古用十八日立腎

男女忌日

男忌除日 男忌避日
女忌破日 女忌避日
女忌破日 女忌避日
女忌破日 女忌避日

壬子乙卯戊午辛酉
年中之若惡也知事
西月初自東風大福南風早
西風無草小風天下太平
國古如後之

卜人出入吉日

己卯二卯三卯四卯五卯六卯
七卯八卯九卯十卯十一卯十二卯
本以代日

正寅二申正巳巳天不食七
八子九年十午土酉十二丑

味嘴嘴地地时忌日也

二六九十一辰十土辰正巳七八
四水卯

出既日三事

九十一土辰十二正巳申二四水申

六七八申丑

月既日

正卯二巳二申四六寅七卯八年
九申十辰十一酉十二辰

外驚日

正酉二丑二巳巳酉六午六酉七酉
八辰九戌十戌十一辰十二辰

著作古月

二四八十一十二名

六六七殺入

正九六出

木性

二六十一金碧 二八水碧 二九火碧

火性

二七十一金碧 二八火碧 二九水碧

土性

二七十一火碧 二八金碧 二九水碧

金性

二七十一火碧 二八金碧 二九水碧

水性

二七十一火碧 二八金碧 二九水碧

一七碧金碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

一火性之入火碧月夜法也

一火性之入火碧月夜法也

一火性之入火碧月夜法也

二年月夜

一本水火碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

一本水火碧月夜法也

巳 元僧井小由別事安示入字例也若云此
初在右田日
卯 元僧前主院將田日入字室出
火津糸家タレ者

戌 下女下人入者

子 元僧清養寺入字例也若云
申十忽日大破山家津タ子マキ入字者

午 田力リ解九タ子マキ出字入字火津糸家
辰 解九タ子マキ元僧後將入字者大田日

寅 元僧田力リ清養院將田日解九下女入
室例者云此初在日

丙

者

卯 元僧清養院將田日解九下女入字例也家
カレカキ者大田日

丑 津事タ子マキ入モタツ地後將室出
若云初日

亥 室出解九入字火津糸家家タレ者

丁

酉 門立寺入井フリ火津糸カレカキ者二平日者
未 出初家出フリ林八月十忽日十破日

巳 入字家家タレ者元僧前將田日解九下女入
若云八田日

戊

辰 元僧下女下人入カレカキ父或日大田日
寅 人入牛馬入者ハマキ三田日イシ
子 牛馬タ子マキ田力リ解九後將田日解九下女入
戌 家出將田日之出初カマリ井フリ家
申 若大忽日

午 田力リ田日アタマキ者天地初合日
巳 天地初合日入タ子マキカマリ表野室出
卯 若地初合日入津事火津糸家家タレ
丑 入井フリカマリ初後タレ者大田日

巳

寅 寺入井フリ人入者
酉 三田日若解九カキ後タ子田日
未 火津糸家出初日

天福日此日天有福事

乙未二申之丑辰戌丑未子午巳

八寅九卯十辰十一巳十二年

地福日此日并子辰未酉又壬戌

乙未九申二十六亥二十七巳思生辰

大忌日

此日二日三日四日五日六日七日八日九日十日十一日十二日十三日十四日十五日十六日十七日十八日十九日二十日二十一日二十二日二十三日二十四日二十五日二十六日二十七日二十八日二十九日三十日
日天火地火トテ大忌日也

春

甲子

乙丑

丙寅

丁卯

戊辰

己巳

庚午

己未力フリ日衣裳調忌日

乙未年九十月十一日十二日十三日十四日十五日

辰巳午未申酉戌

己巳庚午酉戌丑甲申丑戌忌

辰子對吉日

己巳

乙未

丙寅

丁卯

戊辰

己巳

庚午

解嫁忌日

六月初庚日未辛日

葬禮吉方日時

金神七殺方大凶

歲人出此方其家中
年內七人出方也可忌

甲巳

在歲

午未申酉方

乙庚

在歲

辰巳戌亥方

丙辛

在歲

寅卯午未方

丁壬

在歲

寅卯戌亥方

戊癸

在歲

丑申酉方

三鏡圖

定葬所方角處忌
用戌時不扶善惡時也葬者不忌
土用但忌掘新穴也

八龍王

春甲子乙亥此
日葬送八人死

七鳥日

夏丙子丁亥此
日葬送七人死

九虎日

秋庚子辛亥此
日葬送九人死

六蛇日

冬壬子癸亥此
日葬送六人死

惡日葬人父

孔雀經云一切日皆善一切宿皆賢

諸佛皆成德羅皆行願以此誠實

言願我成吉祥

書此文

入棺則不嫌善惡四方也無緣

藏云何方成共名未申之方
時何時成共名付戌時下葬喪

黃帝軒轅曰正五九卯二六

午四八十六酉三七十六子二此日喪人

十二人亡也

日和考

一初五二七時示每回要會六

八風

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸

右は庚も十干十二支の月

書に合ふ排強殺を常承

記教より卦に凡て占知る通

孔明曰々天文之上

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

外七ツ加テ九ツ拂殘日六左記

一ツ残雨二ツ残日和三ツ残朝雨
四ツ残雨五ツ残日雲六ツ残日和
七ツ残雨降八ツ殘風廻風吹九ツ
殘林雨ト知ヘシ

天竺山頂

一壬子年庚寅迄十百八廿九
一甲申年癸巳迄十百八廿九
一乙卯年壬子迄十百八廿九

一乙卯年壬子迄十百八廿九

右の如き法は此迄は
必殺道と云ふ事なり
取らる

此の法は此迄は

一此の法は此迄は
風波海は此迄は

一此の法は此迄は
北風も北は此迄は

此水國後天

一水成

右白河海はる必難成はる
云々云々云々

一水と云ふは、水と云ふは、
海海は、水と云ふは、

金神遊り日

雲乙卯より東、雲乙卯

夏、丙午より東、雲乙卯

秋、辛酉より西、雲乙卯

冬、壬子より東、雲乙卯

金神、一方角、一方角、

云

西十阿
東南字
北大行
起匠、云、云

所也此、あることと動、
なりてよし

一 同と、地のふくの成る、寺也と
又也ぬりちと動、つとま井所
たり様を府所とある、いふあ
ぬ三月の丙子とあり、あまふく
す

一 可と、兩地成なり、さる也と
を求なり、府方とありし
人、相語り潤り

信之

甲子人 丙子人 戊子人 庚子人 壬子人

とていふまゝ

子卯丑辰巳未申酉戌亥

水石書

正成りなり
子思なり

三子子
世子子
四子子
五子子

五寅の
卯丑の
辰未の
申酉の
戌亥の

七 申を以て辰を以て
八 未を以て巳を以て

九 庚子年 丙午月
十 庚子年 丙午月

十一 申子
十二 辰酉

甲乙
子未く不久之
西

戊子 東生の
百歳の三子、不久
一歳卒 東生の
三子、不久

壬辰 己未の
年かろく人

子
辰
申
戌
丑
巳
未
酉
亥

寅
卯

辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子 丑 寅 卯

癸

水痕忌日

水痕忌大月初一初七十一十廿

廿三廿四小月初一初七十一廿二廿三

右忌送船行忌

諸船忌船行忌日事

以唐人多信焉

毎月朔日十五のち九日十七日

三月廿七日とちくうとやう

毎月三つりふん事

正日ち大風二日ぬすつたかき日

辛日ちちち日ぬあ風らん

丑日ちちちち日ぬあ風らん

辰日ちちちち日ぬあ風らん

巳日ちちちち日ぬあ風らん

午日ちちちち日ぬあ風らん

未日ちちちち日ぬあ風らん

申日ちちちち日ぬあ風らん

酉日ちちちち日ぬあ風らん

戌日ちちちち日ぬあ風らん

左書撰政津役山花王子於所
祿中シシと述る事は侍り所
高恩難之仕名漢為治裁仕
永代ノ重宝仕名なる為ニ要
仕重ル

康白族之年乙卯

十一月廿

乙卯年十一月十六

乙卯年十一月十六

申子辰生人馬に年未ニ亥卯
未生人馬中一箇成ニ客ハ
年成生人馬亥子丑ニ一箇
丑生人馬亥卯辰ニ一箇
亥卯辰ニ一箇

乙卯年三月十一日
石磨化りて
石なり

内
警

夢に占

一子にてもあるやう男女共に口舌を初め

七五水ア

一、世にいとあふり辰方にはなかりせり

著錄

一室にして萬物を定む可也。

又申之

[illegible]

又母一方有可也

一、
色
心
物
方
後
事
一
玄
耳
人

[illegible][illegible]

夢

一、年一萬分、密地、下、

又里村秋子

まゝしんせつ
まゝしんせつ

一、申しはるゝのふを宝持事やい

わしは南の方から来て大荒し

又次曰病子也

[illegible]

口夜星

一、又、日々、東方、女、母、て、は、を、う、

又傳於江戶

甲子
乙丑
丙寅
丁卯
戊辰
己巳
庚午
辛未
壬申
癸酉

乙巳 如人 自 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

西宮殿後坐於園中

又曰名可名

己巳後中

唐年乃心計中全

奉志堂也。けり。大友。り。

變力也

甲戌 万子月如子

乙亥陽中
丙子陰中

丁丑也人々中 物々々々も是るハ
老なり

戊寅も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也
己卯も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

庚辰も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

辛巳も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

壬午も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

癸未も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

甲申も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

乙酉も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

丙戌も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

丁亥も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

己丑人々中 物々々々も是るハ

庚寅も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

辛巳も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

壬午も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

癸未も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

甲申も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

乙酉も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

丙戌も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

丁亥も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

戊子も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

己丑も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

庚寅も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

辛巳も是る也 丁丑も是る也 丁丑も是る也

手裏友は恒に其國を去るなり
金印を以て大よ
り及地へ往て中つるをよ
乙に上りて中をゆりぬるをた
雨を以て中をぬるをよ
一と来りて中をぬるをよ
戊申より中をぬるをよ
己酉より中をぬるをよ
庚戌より中をぬるをよ
辛未より中をぬるをよ
壬子より中をぬるをよ
癸丑より中をぬるをよ
甲寅より中をぬるをよ
乙卯より中をぬるをよ

乙卯より中をぬるをよ

丙辰より中をぬるをよ

丁巳より中をぬるをよ

戊午より中をぬるをよ

己未より中をぬるをよ

庚申より中をぬるをよ

辛酉より中をぬるをよ

壬戌より中をぬるをよ

癸亥より中をぬるをよ

甲子より中をぬるをよ

乙丑より中をぬるをよ

丙寅より中をぬるをよ

[illegible]

馬行乞書不月

不月不月

不月不月

不月

不月





